

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	北海道大学	整 理 番 号	1801
プログラム名称	One Health フロンティア卓越大学院		
プログラム責任者	山本 文彦	プログラムコーディネーター	堀内 基広
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「One Health:人と動物の健康と環境の健全性是一つ」に焦点を絞ったプログラムは、中間評価結果の指摘を受けて、かなりの改善策が練られ、事業が進展しているように見受けられる。これまでコロナ禍で遂行できなかった海外研修について、本年度は47件と急増しており、学生のモチベーションの高まりとともに、ワクチン接種、海外旅行保険等の経済的支援も行き届いており、その成果が期待される。 ・Ally course では、文系の修士課程学生の参加促進を目的とし、2年で修了可能な短期コースの新設について、今後を期待する。 ・面接した学生たちは、QE での発表を通し総合的に審査され、他の専門領域の視点からもアドバイスを受けられたことを高く評価しており、指導体制は充実している。留学生も半数を超え、国際性という点でも優れている。また、今後の海外研修についても意欲的だった。 ・経済的支援では、卓越大学院科学研究費、TA・RA 経費等が支給され、また、「北海道大学 DX 博士人材フェローシップ制度」(JST) の採択により、学生への経済的支援はさらに充実している。 ・KPI では、原著論文、国際会議での発表、全て英語による授業等、多項目にわたり達成し、高度な知のプロフェッショナル育成に向けて、着実に行われている。 <p>【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス COVID-19 の感染拡大により、人獣共通感染症への認識が世界中で高まり、獣医学と医歯薬学との連携による本プログラムの社会的意義はたいへん大きい。また、ウイルスの蔓延は、国家や社会の健全性も含めた人類全体の問題であることを、期せずして明示したことから、獣医学や医系に留まらず、人文社会を含む全領域の課題として、大学院教育全体への波及効果が期待される。 ・総長直轄の運営組織として「大学院教育推進機構」、共同プロジェクト拠点として One Health Research Center(OHRC)が設置され、プログラムの継続発展のための検証と推進が期待される。 ・将来構想では、文系を含む11部局で構成される One Health 総合教育研究拠点として、本プログラムの継続的な実施と発展が見込まれる。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OHRC が大学院教育改革にどのように関与していくのか、必ずしも明確でない。大学院教育の今後の方向性を念頭に、実質的な組織再編等を行っていただきたい。 ・未来戦略本部大学院改革検討部会の傘下に「リカレント教育推進タスクフォース」を設置し、別に「(大学院レベル)リカレント教育の方向性」を取りまとめたとしているが、本プログラムの位置づけについてもどのように展開をしていくのか、検討いただきたい。 ・財政面では、検査料等の増収の工夫がみられているものの、長期的なプログラムの 			

継続のための資金計画については、必ずしも具体的でなく、例えば、ペットの飼い主を対象とした寄付や研究成果の情報提供等により、安定的な財政基盤づくりが求められる。資金計画と大学院改革との関連については調整中とのことであるが、明白になった時点で伝えていただきたい。

- 北海道大学の看板となる本卓越大学院プログラム実施責任者としては、エフォート(0.2)が低く、実質的なエフォートを示していただきたい。
- 本プログラムのテーマである One health に焦点を当てた人獣共通感染症の問題は、社会的影響力が大きく、大学院の共通教育のためにも、Ally course の実質的な充実を、喫緊の課題として取り組む必要がある。
- 特に Ally course へは、動物福祉、human-animal bondに加え、動物行動学、動物福祉学等や社会実装も視野に入れ、サイエンス・コミュニケーションの専門家だけでなく、人文社会科学系の教員や学生の理解促進と参画が不可欠である。文系の学生にとり、本コースへの参加により多様なキャリアパスの可能性が広がり、有用な人材養成となることをアピールしていただきたい。
- HP は改善されたものの、大学院教育改革推進のためには、参画する文系教員の紹介なども功を奏すると思われる。学生支援経費や学生紹介欄なども、より多くの情報を示すことにより、優秀な学生の獲得の促進が見込まれる。また、HP における COVID-19 の扱いが小さく、本プログラムの特長である人獣共通感染症の研究教育拠点であることを、国内外に宣伝する工夫が必要である。
- 面接した学生以外で、何らかの問題を抱えている者がいることもアンケート結果から懸念されるが、Co-Supervisor 制度やメンター制度を利用している学生数は必ずしも十分でない。個々のプログラム生の達成感や、卓越性のボトムアップのためには、キャリア形成サポートのための進路希望調査を含め、実質的なメンター活動等で学生指導の指針に生かしていただきたい。